

ひびひひひひひひひ 茶話「オペラ」ってどんな意味？ ひびひひひ2012.10.3



日本で「オペラ」英語で「opera」というとセリフの代わりに歌を用いる「歌劇」だけれど、他の国でもやっぱり同じ意味なの？



そう、イタリア語でもオペラ「òpera」は「歌劇」という意味だけれど、一番の意味は「労働、仕事、骨折り、労、努力」それ以外には「仕事ぶり、手並み」「成果、成績、作品、著作」「一日分の仕事＝日雇い」「(慈善事業などの) 団体・組織・協会」の意味があるの。イタリア語やフランス語の源流・ラテン語「opĕra」では、やはり「労力、骨折り」「仕事、任務」「行為、行動」「製作物、作品」「日雇い」の意味があるから、イタリア語にはラテン語の影響が強く残っているかもしれないわね。オペラで喝采する人は日雇いアルバイトだったらしいわよ。日本でいう「さくら」かしら？



そうかもね。フランス語「opéra」は「歌劇」「歌劇場」「オペラの総譜(歌詞)」という意味で、美術では「オペラピンク」■という色を意味するの。また昔の言葉では「傑作・難事業」を意味するから、やはり元は仕事よね。しかも苦勞して仕上げる仕事。



なるほど。ドイツ語では「Oper」と書いて「オーパー」と発音するのだけれど、意味は「歌劇」「オペラの上演」「歌劇団」「歌劇場」でも「Opern」という風に使うと「くだらない話」という意味になるの。それはオペラをバカにしているわけではなくて、喜歌劇として楽しんだところからきていると思う。



òpera buffa「オペラ・ブッフア(喜劇)」



opéra bouffe「オペラ・ブーフ(軽い音楽喜劇)」ね。



そうだね。「ばかばかしい」から笑えることもある。嬉しいにしろ悲しいにしろ客席で石のように固まっていたらどうしよう、の世界だね。日本人は特に静かでなかなか感情を露わさないから「ブラーヴォ！」と叫んでくれる人がいるとホッとするよね。「よかった、誰か言ってくれて」「よかった、演じてて(出演者)」「よかった、楽しめて(客)」「よかった、評判良くて(企画者)」でもこうして「オペラ」の意味を見てみると、オペラって確かに「労働」だよ。傑作を骨折って努力して一つの舞台作品に仕上げるのが「オペラ」というわけだ。言葉って面白いね。しかし我々猫族も人間に負けずに良く働くよ。悪さをするネズミがいるから、古くは船の積荷を守ったり、最近では貴重な美術品を守る「美術館護衛」という職もある。また古くから「招き猫」として人を集めたり、お金を集めたりするんだ。日本の猫駅長は大活躍だね。

さあ、では労働の合間に、みんなでお茶にしようか。
せっかくだからコーヒー・紅茶をそれぞれの国の言葉で言ってみよう。

コーヒー(日) coffee カフィー (英) caffè カッフエ (伊) café カフェ (仏) café カフェー (独)
紅茶(日) tea ティー (英) tè テ (伊) thé テ (仏) tee テー (独)



スマン。吾輩は日本の猫でありながら、秋といたらモンブラン。巨大なイタリア栗に目がない。

Bravo! (男性一人に) Brava! (女性一人に) Bravi! (男性を含む複数に) Brave! (女性複数に)
ブラーヴォ! ブラーヴァ! ブラーヴィ! ブラーヴェ!